

東御市梅野記念絵画館館長
佐藤 修

ここに、10年前(2003年)の10月に船山滋生先生が書かれた文章がある。

その光輝や熱を含めて、背後に光を感じてはいる。

しかし、私が見るのは、その光が照射する眼前の風景であり、私自身の影だ。なにひとつとして、不变のものはない。たとえ、徐々に枯れて行く木の葉がその葉脈を露わにし、あるいは、策略を巡らす一匹の蜘蛛が描き出す見事な銀糸の造形に、ある摂理を感じたとしても、私が共感するのは、来るべき次の季節に向けて、変容する木の意志であり、生き延びようとする蜘蛛の意図にむかってである。

上手の手から水が漏れるようにして、この世界は生まれたのだと思う。

自身の影の長さをはかりながら、揺らぐ風景の向こうに、もう一つの風景を探している。

これは2003年に当館で開催した「船山滋生彫刻展」の図録の巻末に掲げられた文章であり、これで全文である。

彫刻家のデッサンは画家のそれと一味違つて一見の価値があるとよく言われるが、デッサンだけではない、彫刻家の文章もまた斯くの如く造形的で隙がなく、見事な切れ味である。

前段になんの記述もなく、いきなり「その」という指示語で書き始めるることは普通はしない。が、読み返せば、この破綻の出だしがこの文章の命であることに気づく。更に言えば、十行に満たないこの文章を構成する一つひとつのセンテンスがいざれもそぎすまされて完璧であり、全体を「作品」にまで仕上げている。

船山先生には、「遐域(かいき)」と名付けられた彫刻作品のシリーズがある。そのすくと立つプロンズ像の頭部に目鼻はない。が、明らかにどこか彼方を見やっている。「遐域」とは「遙か遠くの土地」のことと辞書にあるが、先生は「『遐域』とは私にとって蜃気楼のようなもの」と言わされた。されば、「自身の影の長さをはかりながら、揺らぐ風景の向こうに、もう一つの風景を探している」という一文は、芸術家としての自身の確固たる視座を語ったものであると言えよう。

芸術家とは美神と約束を交わした存在であり、その約束を果たしていくことが芸術家の行為であり表現である—これもまた船山先生の言葉である。

船山先生は、冒頭の文章を記して8年後の2011年の春、病にたおれ美神に召された。

自身の影が像を結ばなくなり、最後の祈りの世界の中にあって、彫刻家は、蜃気楼の奥に見えていたであろう道標(それは美神との約束の地)にきっと辿り着いたに違いない。



■2013年展覧会スケジュール

変更となる場合もございます。

4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
大展示室 ふれあい館	船山滋生展 4/13~6/9	信州の画家たち それぞれの信州展 6/15~8/25	人生絵あれば 冬青 小林勇展 8/31~10/20			荘司貴和子展 10/26~1/13	施設管理等のため休館 1/14 2/7	梅雨コレクション展 2/8~3/30		今西中通展 2/8~3/19	アート・シード アート・シード
			早生の画家4 篠原道夫展 8/31~10/20	第13回 私の愛する一点展 10/26~1/13							

■2013年イベントスケジュール

変更となる場合もございます。 詳細はお問い合わせください。

5月24日(金) 船山滋生 彫刻ツアー 定員30名 要事前予約

本展覧会の他、屋外に設置された船山滋生作品(当館周辺と軽井沢)を鑑賞します。初夏の1日をさわやかな信州でいかがですか?

詳細は、ホームページまたはTEL0268-61-6161にて。

7月28日(日) 木雨忌、ギャラリートーク

8月24日(土) スケッチ大会＆アートチャレンジ ※今後、随時ホームページにてご案内します

■施設情報、開館案内

とうみし

東御市梅野記念絵画館 <http://www.umenokinen.com/>

〒389-0406 長野県東御市八重原 935-1

TEL0268-61-6161、FAX0268-61-6162、umenokinen@ueda.ne.jp

開館時間 午前9時～午後5時(午後4時30分までにご入館ください)

入館料 800円(高校生以上) 15名以上団体 700円

身障者割引、学校利用減免、減額制度もあります。

休館日 4月15、22日 5月7、13、20、27日 6月3日

■アクセス

お車 練馬ICから2.5時間

◆関東、北陸方面から

上信越道東部湯の丸インターから15分

◆中部、関西方面から

長野道岡谷インターから新和田トンネル、R142号経由で約1時間

鉄道 東京から最速2時間

しなの鉄道「滋野」下車、タクシー10分

◆関東、北陸方面から

北陸新幹線「上田」で、しなの鉄道乗換、滋野下車。

◆中部、関西方面から

特急しなの号利用「篠ノ井」で、しなの鉄道乗換、滋野下車



地域の情報をラジオで発信!
エフエムとうみ 78.5MHz

リクエスト、メッセージは
m@mftomi785.jp

梅野
記念
絵画館
www.umenokinen.com

〒389-0406 長野県東御市八重原 935-1 TEL 0268-61-6161 午前9時～午後5時 ■月曜休館(4/30は開館、5/7休館)



月の光 2005年
画像提供:アート・シード
Funayama Shigeo
船山滋生展

2013年
4月13日(土)→6月9日(日)

船山滋生 Funayama Shigeo

1948年、小説家・船山馨の次男として東京で生まれる。船山馨の小説の装幀、挿画を担当していた彫刻家の佐藤忠良宅へ、父の使いで幾度となく訪れた際に見た彫刻が、船山滋生の原点にあったようだ。

明治学院大学文学部に入学したが中退、東京造形大学に移り佐藤忠良氏に学ぶ。1973年に卒業し、同年軽井沢町に転居、町役場に勤めた。82年に退職し、84年に玉屋画廊(東京)で初個展を開催。これが彫刻家・船山滋生の始まりである。この頃の作品は具象が主で、軽井沢町内や住宅都市整備公団の依頼で首都圏の団地にモニュメントも手がけた。

1992年、北御牧村(現東御市)にアトリエ兼住居を建て転住。本格的な作家活動に入る。作品は、これ以降具象から心象的な造形へとシフトして行く。ここで、水上勉の知遇を得て小説の装幀、挿画を担当し、さらに99年から朝日新聞投稿欄「声」のカットを担当(2011年3月まで約13年間)するなど、絵画においてもその才能を發揮した。

アトリエから望む雄大な風景と田園の自然環境が、東京育ちの船山滋生に与えた影響は大きかったと言えよう。流行や伝統に惑わされることなく、自然の摂理に対する深い思慮と凝視の末にテーマを見出し、そこから数々の作品を生み出してきた。立体、平面のみならず、文章においても、繊細な感性と表現のセンスは卓抜したものがある。しかし作品は多くを語らず、静かにそこにあるだけで、凜とした品格を感じさせるのである。

2011年5月東御市の自宅にて逝去され、本展は不本意ながら遺作展となってしまった。

芸術家・船山滋生ー自分が見つめていた風景に我々を誘ってくれるであろう。

本展では、船山滋生の彫刻と平面作品、総数100点以上を展示いたします。



椅子 1971年



森 1991年 東京オペラシティアートギャラリー蔵



サークัส 1993年



ロンド 1999年 個人蔵



水の瓶 2003年



不死鳥 2005年



月の舟 2006年 個人蔵



Mayfly 2008年 個人蔵